

## 武蔵高等学校中学校民族文化部所蔵の縄文土器

亀岡岳志（社会科）・大久保匠（民族文化部 99 期）・西部煌瑛（民族文化部 99 期）

kameoka.takeshi@musashi.ed.jp

### 要 旨

武蔵高等学校中学校の民族文化部が保管してきた縄文土器の一部が、2024 年 2 月に「北新井遺跡出土の縄文土器」として練馬区に文化財登録された。小論は、今回の文化財登録に至る経緯と、旧制武蔵高等学校の敷地の一部も含まれる「北新井遺跡」のこれまでの発掘の概略、を紹介するものである。

### 1. はじめに

武蔵高等学校中学校の民族文化部が保管してきた縄文土器の一部が、2024 年 2 月 28 日に、練馬区文化財保護条例に基づき、「北新井遺跡出土の縄文土器」として練馬区の有形文化財に新規登録されることになった<sup>1</sup>。小論は（1）旧制武蔵高等学校の敷地の一部も含まれる「北新井遺跡」のこれまでの発掘と、（2）民族文化部が保管してきた縄文土器が練馬区の文化財として登録されるに至った経緯、の 2 点について簡単に紹介するものである。

最初に、武蔵高等学校中学校周辺の地形と遺跡（埋蔵文化財）分布の概略を説明する。

武蔵高中周辺地域は、南側に妙正寺川支流の中新井川（江古田川）が流れ、北側は石神井川の流域となる。学校は両河川間の台地面上にある。この台地面には、中新井川左岸および石神井川右岸の支流群が谷戸地形を作っている。行政区分としては主に練馬区（南東部）と中野区（北東部）にまたがっている地域となる。

上記範囲の遺跡の分布を「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」<sup>2</sup>で見ると、遺跡（埋蔵文化財）が多いのは、中新井川および石神井川とその支流沿いである。練馬区の遺跡は 9 割近くが縄文時代のもので、そのほとんどが中期の遺跡である<sup>3</sup>。武蔵高等学校中学校周辺でも例外ではなく、縄文中期の遺跡が多い。集落遺跡としては、現在の武蔵学園すぐ南の「北新井遺跡」（練馬区豊玉北 2 丁目）、中新井川左岸（北岸）の江古田弁天遺跡（中野区江原町 2 丁目）、中新井川右岸（南岸）の通称「寺山」（現江古田の森公園周辺）の「江古田遺跡」（中野区）、そして石神井川右岸支流谷戸地形に面する「小竹遺跡」（練馬区小竹 1 丁目）や小茂根周辺の遺跡（板橋区）などがある（図 1 参照）。また土器などの包蔵地は川沿いの低地に多い。「南於林遺跡」（豊玉中 1 丁目）は、北新井遺跡のすぐ南の中新井川左岸（北岸）の低地に位置し、旧石器・縄文・古墳の遺物および古代の

水田とその上をあるいた足跡が発見された。「江古田遺跡」群の一つ、妙正寺川右岸の「北江古田遺跡」（中野区江古田3丁目）からは、縄文時代のカゴやクルミ、漁撈に使用するオモリ等が出土している。新江古田駅南側の妙正寺川左岸低地周辺（中野区江原町2丁目）にも土器等の包蔵地が広く分布している。

これらの遺跡・遺物から、武蔵高等学校中学校周辺では、縄文時代中期に狩猟採集活動を営む人々の定住集落が川沿いの低地に面した台地の縁に立地していたことが分かる。また中新井川（江古田川）周辺の低地では古代から稲作が行われており、武蔵野台地の中小河川沿いの低地や谷戸地形の水田開発の古さがうかがい知れる。

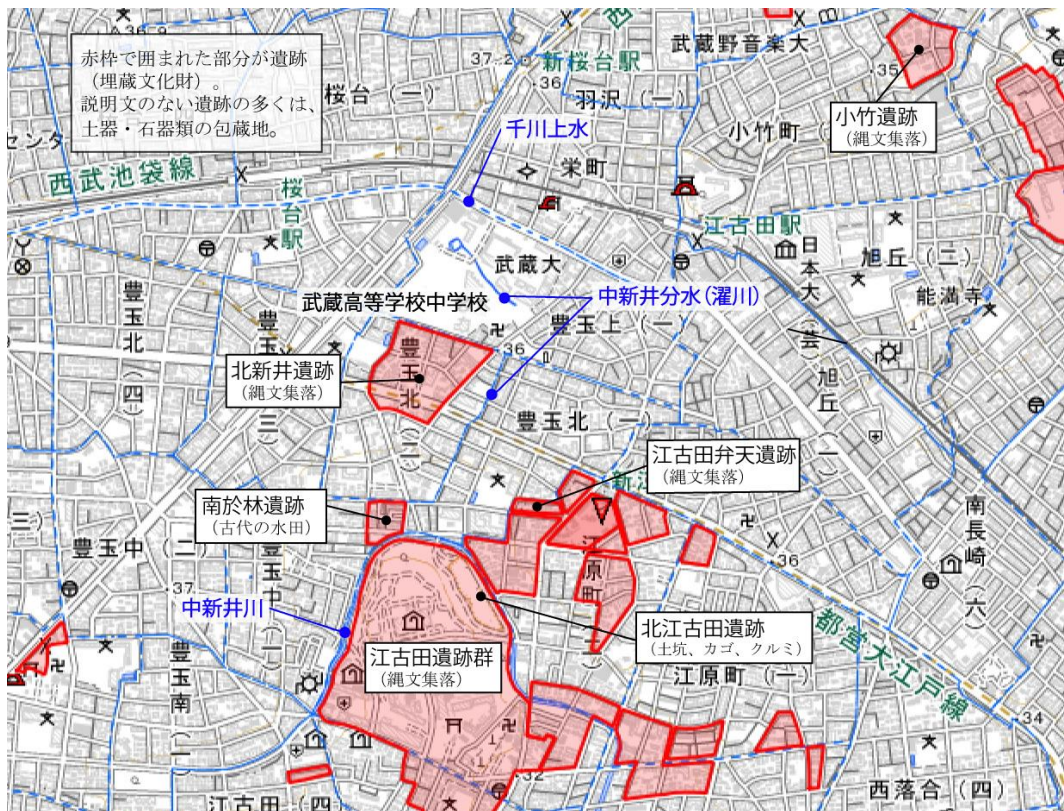


図1 武蔵高等学校中学校周辺の遺跡

（「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」を利用して作成）

## 2. 北新井遺跡について

本章では、旧制武蔵高等学校の敷地内もその一部とされる「北新井遺跡」について、これまでの発掘調査について説明する。

遺跡は「国民共有の財産」と言えるが、土地開発行為によって破壊される場合が多いため、開発に先立ってとして「緊急発掘調査」、あるいは「行政発掘調査」が行われる。日本

では、ほとんどの発掘調査はこの種類であり、調査に際して遺跡番号や固有の遺跡名が付けられる。「北新井遺跡」は、練馬区の遺跡番号 128、所在地は練馬区豊玉北二丁目、2011 年の調査でその名前が付けられた。名前が付けられる前まで含めると、以下の(1)～(3)の 3 回の発掘等調査記録が発行されている。加えて(4)の調査が行われた。

#### (1) 1936 (昭和 11) 年 3 月

場所：豊玉北 2 丁目 13 番地

1935 (昭和 10) 年から、武蔵高等学校周辺では、中新井第 3 土地区画整理組合による土地区画整理事業が開始された。この事業工事ともなう道路造成で遺跡が発見された(図 2)。武蔵高等学校の生徒が、山内清男氏の指導の下で発掘調査を行った。縄文時代の竪穴住居跡、および竪穴住居跡に捨てられた土器(縄文中期)が出土した。

#### (2) 2011 (平成 23) 年 2 月

場所：豊玉北 2 丁目 16-12 他

集合住宅建設に伴う事前記録調査が行われ、竪穴住居跡 9 軒および縄文中期の土器・石器・土偶が発掘された。土偶は練馬区内で唯一のものであり、石神井ふるさと文化館に展示されている<sup>4</sup>。

#### (3) 2014 (平成 26) 年 11 月

場所：練馬区豊玉北 2 丁目 8、15

集合住宅建設に伴う記録調査が行われ、遺構として、防空壕跡(近代)、石器ブロック・礫群(旧石器時代)が発掘された。また縄文時代中期の土器、ナイフ型石器、石刃、剥片碎片などが出土した<sup>5</sup>。

#### (4) 2022 (令和 4) 年 9 月～2023 (令和 5) 年 10 月

2022 (令和 3 年) に早稲田大学会津八一記念博物館へ、1935 (昭和 10) 年の発掘調査(上記(1))の写真や山内清男の武蔵高等学校での講演原稿が山内家から寄贈された。練馬区ではこれらの資料の調査を通して<sup>6</sup>、当時出土した土器類を本校民族文化部が保管していると考え、2022 年 9 月から 2023 年 10 月にかけて次章で説明する通り、民族文化部等の協力のもと調査を行い、土器の比定と発掘調査地の確認を行った。

武蔵高等学校校墓石器時代遺跡の發掘  
山内清男  
去る三月十一日より半月に亘つて、武蔵高等学校文庫部員は同校墓石の石器時代遺跡の發掘を行つた。東京市を貫流する神田川の上流、これは中央線新市街の大牛に亘つて居り、その間に起伏する高塚には數十ヶ所の石器時代遺跡があるが、この遺跡はそのうち最も北に位するものである。南面する丘上にあり、谷をへだてて結核寮所構内の遺跡に對して居る。遺跡の年代は縄紋式中期、土器は所謂厚手式であるが、その中でも古いものから新しいものまでの各所級のものがある。最近道路工事が行はれて、竪穴住居跡の断面が露出に露出して居る。散歩がてらの見學には好適の場所であらう。今間の發掘に於いても、二地跡で竪穴住居跡を掘り當てた。第九圖版は數十枚の寫眞のうち編者を選ばれたものであつて、上は第一竪穴中央部上方に於ける、土器の大盆出土の光景、下は發掘作業を示す構みつともない圖である。撮影は大町四郎氏、この部分から出た土器は、形のわかるもの十餘個、その他夥しい破片があるが、竪穴部が廢川後田地となり、そこに土器が捨てられたものと見える。海岸地方の遺跡では貝殻が竪穴に捨てられる例がある。問地に廢物を捨てることは古今を通じて同じであらう。彌生式、古墳時代の竪穴にも同様の事實が認められる。(終)



図2 山内清男「武蔵高等学校舊旧石器時代の遺跡の發掘」1936

### 3. 武蔵高等学校中学校民族文化部所蔵の縄文土器について

前章2.の(1)の発掘調査で出土した土器は、武蔵高等学校中学校の民族文化部が保管してきた。本章では、これらの土器が2024年2月に文化財登録されるに至る経緯について、主に民族文化部・部員の久保と西部が説明する。

武蔵高等学校中学校民族文化部は、多くの土器を保管してきた。しかし近年は、土器に興味のある部員がおらず、土器類はほぼ放置の状態であった。部員は、縄文土器については武蔵創立時に出てきたものであるとの説明を受けていた。

一方、前章2.(4)で説明した通り、2022年の山内家資料の寄贈などにより、練馬区では武蔵高中所蔵の縄文土器調査の意向を持っていた。以下、2022年夏以降の武蔵高中内での調査について、特に民族文化部での作業を中心に、経緯を時系列で説明する。

○2022(令和4)年夏

練馬区地域文化部生涯学習科伝統文化係の都築恵美子氏が、民族文化部所有の土器に関心を持たれている、と顧問の猪尾先生(社会科)を通して民族文化部部長の久保らに連絡が来る。なお、この時点で将来的な文化財指定も視野に入れていると言われる。

山内清男氏という考古学者の手記に武蔵周辺での発掘記録が残されており、そこで発掘された土器が民族文化部所有の土器の可能性のあることであった。

○2022(令和4)年9月16日

都築氏が武蔵高等学校中学校へ初めて来訪された。部室から全ての土器類(土器破片も含む)を演習室3-1へ運び出した(写真1)。土器類は箱毎になんとか分類されていたが、それぞれの箱に入っている土器が何かは分からない状態であった。都築氏は一通りご覧になった後、縄文土器の選別方法について部員(5人程度)に説明をした。その指示に従って、部員はまず縄文土器を選別した。次に都築氏は武蔵近辺で発掘されたであろう土器の特色を説明され、部員が再度選別を行った。それを都築氏が回収された。

○2022(令和4)年9月28日

民族文化部内の会合を行い、久保より今までの経緯を説明



写真1 民族文化部の土器類

した上で、今後土器をどうするのかについて部員とともに協議をした。この会合において部内から今後土器が文化財に指定されることについて反対意見は出なかった。

○2022（令和4）年10月13日

都築氏が再び来訪され、西棟演習室3-1において前回の訪問では回収できなかった破片を回収される。また、研究対象外の土器も含めて様々なことを民族文化部員へ教示していただいた。

○2022（令和4）年冬～2023（令和5）年夏

回収した破片をもとに練馬区の方で修復作業が行われる。

○2023年9月25日

上記修復作業において足りない破片があるとのことで、都築氏が来訪される。第四講義室へ土器を運び出し、部員一同サンプルと似たような土器の破片を探した。なお、そのときに土器の発掘場所や北新井遺跡などについても都築氏より説明を受ける。山内清男のご家族が所有されている発掘場所から撮影された武蔵の写真も拝見をした。

○2023（令和5）年10月20日

都築氏が社会科研究室へ訪問され、民族文化部顧問教諭の猪尾と本稿執筆者の一人の亀岡と共に、山内清男氏の発掘記録および発掘時の写真を手がかりにして、1936年（昭和11年）3月に発掘された竪穴住居跡の場所を検討する。山内氏撮影の写真にある本校校舎、および土地区画整理事業の進展と照らし合わせて、場所と発掘時期を特定できた。

○2024（令和6）年1月

都築氏より当該土器が文化財認定されたと民族文化部顧問の猪尾に連絡があった。

○2024（令和6）年3月

都築氏が来校され、文化財登録書（図3）、『練馬の文化財』第114号（図4）、『練馬区報』第2038号（図5）等を届けて下さる。『練馬の文化財』には、見事に復元された土器類の写真13葉とそれぞれの土器についての解説が掲載され、加えて練馬区登録文化財一覧（有形文化財）の令和5年度新登録として「北新井遺跡出土の縄文土器」が記載されている。

#### 4. おわりに

民族文化部では近年土器類に関心を持つ部員がいなかったことは、前述したとおりである。本稿執筆者の大久保と西部も土器について詳しくない。また諸事情により著者の一人となった亀岡もその資格があるとは言えない。本稿には多くの不十分点、そして誤解等も含まれていると思われるが、今回の文化財登録をきっかけに、民族文化部の部員や武蔵高等学校中学校の生徒が、民族文化部所蔵・保管の土器類についての知見を増やしてくれることを祈る。執筆者（s 亀岡）も協力したいと考えている。

またすでに述べた通り、民族文化部の土器は「ねりま区報」3月21日号（練馬区広聴広報課, 2024）では特集として掲載され、『ねりまの文化財』第114号（練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係, 2024）では3頁にわたって詳しく解説されている。土器の様式・分類については、そちらを参照されたい。また練馬区立石神井公園ふるさと文化館では2024年3月29日～6月23日に新規登録文化財として展示されていた（写真2）。北新井遺跡から出土した区内唯一の土偶も常設で展示されている。本校生徒諸君は、是非ふるさと文化館を訪問して、これらの実物を見てきて欲しいと思う。



写真2 石神井公園ふるさと文化館2F 常設展示室の北新井遺跡出土の土器と土偶展示  
「令和5年度新規区登録文化財 北新井遺跡出土の縄文土器」（上の段、および左下）  
「北新井遺跡出土の土偶」（右下）



# ねりまの文化財

令和5年度新規の登録文化財

## 北新井遺跡出土の縄文土器

(登録有形文化財)

2月28日、練馬区文化財保護条例に基づき、「北新井遺跡出土の縄文土器」を登録文化財としました。

指定・登録文化財は、学識経験者で構成される区の文化財保護審議会の答申に基づき、所有者の同意を得て教育委員会において決定されます。

これにより区登録文化財は、有形文化財125件、無形文化財1件、有形民俗文化財47件、無形民俗文化財22件、史跡13件、名勝1件、天然記念物11件の合計220件となりました。このうち、特に重要であると認められる区指定文化財は49件です。

文化財は、長い歴史を通じて先人たちが築き、守り伝えてきたかけがえのない遺産です。区では、これからも地域文化の創造に不可欠な文化財の保護と活用に努めてまいります。

〈所有者〉学校法人根津育英会武蔵学園  
〈所在〉豊玉上1-26-1

あらまし  
武蔵高等学校中学校

昭和11年(一九三六)に、豊玉北二丁目13番付近現「北新井遺跡」で、考古学者である山内清男の指導のもと、武蔵高等学校が発掘調査を行い、縄文時代中期の土器が出土しました。

令和3年(二〇二二)に早稲田大学會津八一記念博物館へ、昭和11年当時の発掘調査の写真や山内の武蔵高等学校での講演原稿が山内家から寄贈され、発掘調査の詳細が明らかになってきました。

そこで、区では、武蔵高等学校中学校や會津八一記念博物館の協力のもと、発掘調査地をつきとめ、出土土器の調査を行い、令和5年度に区の文化財として登録しました。

練馬区  
地域文化部  
文化・生涯学習課  
伝統文化係  
〒176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1  
TEL 03(5984)2442

今回登録した33点(13個体)は、発掘調査の事例が少なかった昭和11年に、著名な考古学者である山内清男が行った発掘調査で出土した貴重な土器群であり、いずれも、関東における縄文時代中期の典型的な器形および文様を持つ価値の高い土器群です。

### 発掘調査について

昭和11年の発掘調査は、豊玉北二丁目13番付近において、武蔵高等学校の校地を道路用地等のために交換することが契機となつて、行われました。調査は、武蔵高等学校の部活動である文化学部(現民族文化部)が行い、縄文時代中期の竪穴住居址が2軒と多数の縄文土器が出土しました。

### 縄文土器について

縄文時代は約一万年続きました。中期は五千年〜四千年前です。年代の物差しとして土器群を精査したが、山内清男です。土器群を地域や時期のメロリとして、縄文時代を草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の六期に分け、さらに細かく年代を区分しました。勝坂式土器・阿玉台式土器や加曽利E式土器は細分された土器の時期になります。



図4 『ねりまの文化財』第114号, 2024



図5 「ねりま区報 3/21」第2038号, 2024

- 1 練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係, 2024, P1
- 2 <https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/map.html#main>
- 3 練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係, 2024, P3
- 4 共和開発株式会社, 2011
- 5 都築恵美子他, 2015
- 6 練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係, 2024, P1

## 【参考文献】

- ・北江古田遺跡調査団『北江古田遺跡発掘調査報告書』1987. 中野区・北江古田遺跡調査会
- ・共和開発株式会社『北新井遺跡』 2011. 一建設
- ・都築恵美子・宮塚義人・宮塚翔(有限会社 宮塚文化財研究所)『練馬区 北新井遺跡第二次調査 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015. 株式会社堅城
- ・練馬区教育委員会『企画展関連 講演会「縄文のムラ」シンポジウム「縄文集落研究の争点」記録集』2012. 練馬区教育委員会事務局
- ・練馬区教育委員会編『練馬区の遺跡』1983. 練馬区教育委員会
- ・練馬区教育委員会編『練馬区の遺跡Ⅱ』1997. 練馬区教育委員会

- 
- ・練馬区教育委員会編『武蔵野台地の縄文遺跡』2011. 練馬区教育委員会
  - ・練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係『ねりまの文化財』第114号2024. 練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係
  - ・練馬区広聴広報課「練馬区報」第2038号2024. 練馬区
  - ・南於林遺跡調査団編『東京都練馬区南於林遺跡調査報告書』1994. 東京都住宅局
  - ・山内清男「武蔵高等学校裏旧石器時代の遺跡の発掘」(『ミネルヴァ五月号』(第一巻第四号)1936. 翰林書房

**【謝辞】**

都築恵美子様には何度も来校いただき、本校民族文化部の部員及び教員が様々にご指導いただきました。深く御礼申し上げます。(亀岡)